



ニュースレター「OMOTESANDO HILLS PRESS」は、『文化』『環境』『人』『商業』の4つの視点から、表参道ヒルズの“今”をお届けします。



新しい価値観を創り出す発信地 表参道ヒルズ

タイクーングラフィックス

日本を代表するグラフィックデザイナーであるタイクーングラフィックス。彼らが手掛けたデザインは、誰もが目にすることがあるだろう。その中でも、表参道ヒルズのロゴは、彼らにとって特別な思いのある仕事であった。彼らの表参道、そして表参道ヒルズへの思い、仕事に対する考え方などについて話を伺った。

—— 表参道ヒルズのロゴを手掛けたタイクーングラフィックスの宮師雄一氏と鈴木直之氏。ロゴデザインに関わるきっかけはコンペだった。



宮師 雄一氏

鈴木直之氏(以降 鈴木氏): 表参道ヒルズのコンペに声をかけて頂いた時は、光栄に思いましたね。かれこれ 17 年くらい表参道にいますので、この街が好きだし。「きたな」って思いましたね(笑)。

宮師雄一氏(以降 宮師氏): 最初に話を頂いた時、まずどうプレゼンするかというのを考えました。普通、平面のロゴのプレゼンだと、平面パネルで見せるのが通常なんだけど、なんか立体的に見せたいよねという話になって。じゃあムービーを作ろうかって。それを最初に話しましたね。

鈴木氏: 表参道の楽しさを伝えたいと思いましたね。ストリートを通ったときの四季の移り変わりや、ケヤキ並木の綺麗さ、人がいっぱいいる賑わった様子とか。それらをすごく楽しく感じる。表参道ってクリエイティブが生まれてくる場所なので、それを立体的に見せるためにはどうしたらいいか。映像と音を使って、ロゴをどう考えるかということ伝えたいと思いました。自由に発想できたのがよかったかな。

宮師氏: ストーリーの先に形があるっていう風にとらえて欲しかったんですよね。

—— 表参道への思いが詰まった彼らのプレゼンは、当然インパクトがあるものだったという。しかも、通常のプレゼンでは何案も持っていくところを、漢字ロゴの一案のみしか提案しなかったという。

宮師氏: これしかないと思った。漢字、はんこのモチーフ、スロープや街の雰囲気、歴史的背景とかが表現できる。そういった要素が一気に重なったんでしょうね。それに、建物としても、歴史ある親しまれた同潤会青山アパートの跡地に、新しい価値をつくるっていうのはすごくチャレンジなこと。そのこともデザインをする上で深く考えましたね。

鈴木氏: 漢字のロゴにしたのは、歴史のある場所なのでそこからの発想かな。無理矢理ひねり出したというより、自然とアイデアが浮かんだという感じがします。



鈴木 直之氏

——— ロゴデザイン以外にも、セールヴィジュアルなどを手掛けているタイクーングラフィックス。2009 年の冬のセールヴィジュアルが完成しました。今回のポイントを教えてくださいませんか？

鈴木氏：2007 年が一富士二鷹三なすびをグラフィカルに表現して、2008 年はだるま。だるまは、三次元にしてぴかぴかにさせて、めでたい感じにしたんだよね。今回のひょうたんのモチーフは、そのシリーズ 2 かな。あと、セール広告は目立ったほうがいいので、インパクトのある広告にしたいっていうのはいつも思っています。

——— 今年のモチーフにひょうたんを選ばれた理由は？

鈴木氏：縁起物にはいろいろあるんだけど、それを、いかに“イマ”的な表現ができるかなってところが肝。ひょうたんは、形がきれいだし、マテリアルを変えることで面白い表現になるかなと思って。

——— 3 周年のヴィジュアルについても既にアイデアが？

鈴木氏：色々アイデアは膨らんでいるんですけど、やっぱり表参道ヒルズが他の商業施設と違うってことや、表参道ヒルズらしさがうまく伝わっていけばいいかなと思います。どこにもない、あそこになら存在しない、表参道ヒルズならではのヴィジュアル表現が大事だと思う。

——— 表参道ヒルズが他の施設と違う点とは？

鈴木氏：クリエイティブな感じがすごくする場所。その場所が何か文化を創っていく。そういう場所であり、空間であり、施設だと思う。ただ何か売り買いされるだけの場所じゃなくて、そこから新しい価値観が生まれる、そんな風になったらいいなって思う。ファッションやアートが表参道ヒルズから発信される。広告表現がその一つの手助けになればいいなって思いますね。

——— 表参道ヒルズのヴィジュアルを製作するときに心がけていることはありますか？

鈴木氏：日本的なモチーフをどうモダンに見せるか。それを意識しています。特に、冬のセールヴィジュアルは、日本の正月のめでたいモチーフを、ただの和の焼き直しにならないように、いかにファッション性を取り入れつつ、新しい、面白い表現にするか、心がけています。

宮師氏：表参道の通り自体に、世界中のトップメゾンが並んでいる。あえて、それらとは異なる表現を探し続けることが表参道ヒルズのブランディングにつながるんじゃないかなと思います。

鈴木氏：そう。新しいことに挑戦していきたい。人が見たことのないことをやりたいって思います。そこに、表現上の面白さとかセンスの良さとかを付け加えて。あとは楽しさかな。



WINTER SALE 2009 ヴィジュアル
© TYCOON GRAPHICS



WINTER SALE 2008 ヴィジュアル
© TYCOON GRAPHICS



WINTER SALE 2007 ヴィジュアル
© TYCOON GRAPHICS

―― タイクーングラフィックスのお二人の仕事の進め方を教えてくださいか？

宮師氏: 場所もそうだし、モノもそうだし、人もそうだけど、とにかく最初にいいところを探す。100%以上ポジティブな気持ちで、本当にいいところだけをとにかくいっぱい探す。それを、できるだけ分かりやすく、強くて記憶に残る形で、デザインの技を使って伝えていくというのが仕事の柱になっているかな。とにかくよく見たり、聞いたり、感じたりして、いいところを探す、かな。

―― 最後に、今後の活動のご予定をお聞かせ下さい。

宮師氏: 今、作品集を考えています。最後に出したのが 96 年なので、そろそろ出さないとまずいだろうということで(笑)。来年を目標に、鋭意製作中です。作品展とか(表参道ヒルズ本館 B3F の)スペース オーで出来たら最高だね。いちばん分かりやすいし。だるまとかひょうたんの撮影オブジェを飾るなら、オリジナルのすごい作っちゃおうか(笑)

彼らの手掛ける 3 周年のヴィジュアルも、年明けにはお目見えするだろう。今後もタイクーングラフィックスの活動から目が離せない。

タイクーングラフィックス プロフィール

1991 年、宮師雄一と鈴木直之により渋谷区神宮前に設立。美しく優しく強いデザインが、人と社会を最高のバランスにするとの信念のもと、あらゆる媒体を通し活動を行う。表参道ヒルズロゴデザインでは、2006 年度グッドデザイン賞コミュニケーションデザイン部門を受賞。

HP: <http://www.tycoon.jp/>

表参道ヒルズとは

表参道ヒルズは、日本のファッション、文化の中心としてトレンドを発信し続けてきたストリート・表参道の新たな核として 2006 年 2 月に誕生した、世界に類をみない文化商業施設です。

本館中央の 6 層(地下 3 階～地上 3 階)の吹き抜け空間や、それを螺旋状に囲むように表参道の坂とほぼ同じ勾配を持つ長さ 700m の“スパイラルスロープ”(第二の表参道)、吹き抜け空間中央(地下 1 階から地下 3 階)の大階段、そして大階段につながる地下 3 階には約 500 m² の広さを持つスペース オーが配置されています。約 270m のファサードを構え、延床面積 34,061 m²、約 100 の専門店が集う商業施設、38 戸の住宅(ゼルコバテラス)、全 216 台の駐車場で構成された複合施設です。

所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-12-10		
代表電話番号	03-3497-0310 (総合インフォメーション／受付時間 11:00～21:00)		
URL	www.omotesandohills.com		
営業時間	ショッピング・サービス	11:00～21:00	日曜～20:00
	レストラン	11:00～23:30(L.O.22:30)	日曜～22:30(L.O.21:30)
	カフェ	11:00～22:30(L.O.21:30)	日曜～22:00(L.O.20:30)
	※一部営業時間が異なる店舗もあります。		
休館日	※日曜日が祝日、休日の前日の場合、営業時間は通常と同じになります。		
	※三連休の最終日は日曜日の営業時間と同じになります。		
	2009 年 2 月 23 日(月)、24 日(火)		
	2009 年 2 月 25 日(水)		
アクセス	東京メトロ銀座線、千代田線、半蔵門線「表参道駅」A2 出口より徒歩 2 分		
	東京メトロ千代田線、副都心線「明治神宮前駅」5 出口より徒歩 3 分		
	JR山手線「原宿駅」表参道口より徒歩 7 分		

- 内容に関してのお問合せ、タイクーングラフィックスの顔写真をご入用の際には、下記までご連絡頂けますようお願いいたします。
- このインタビュー記事は、本文をご自由にご利用頂けます。
- 本件に関し、タイクーングラフィックス及び表参道ヒルズにご取材を頂ける際には、下記までお問合せ下さい。

本件に関する報道関係の方のお問合せ先

表参道ヒルズPR事務局: 高橋・高田

TEL 03-5775-1560 FAX 03-3403-0508

森ビル株式会社 表参道ヒルズ運営室 プロモーショングループ: 北川

TEL 03-3497-0292 FAX 03-3497-0318